

「防犯のまち」北本

「犯罪の少なさ」 県内トップレベルのまち

北本市では平成15年のピーク時と比較して、平成25年にはおよそ70%もの犯罪件数の削減に成功しています。その結果、人口一人あたりにおける犯罪の認知件数では、県内40市の中、平成25年は最も少なく、平成26年も10月時点において、2番目の少なさとなっております。

犯罪の抑止は、警察や行政による対応だけで達成されるものではなく、地域の皆さんによる取り組みや意識によって大きく左右されます。実際、北本市におけるこの10年間にわたる傾向も、地域での様々な積み重ねと歩調が合わさっての犯罪数の減少です。様々な取り組みにより、県内

トップレベルの犯罪の少なさを達成したところですが、これまでは自主防犯活動など、ボランティアの皆さんによる取り組みが中心でした。今後、さらに安心安全なまちを実現するためには、一人ひとりの市民の皆さんからの協力が不可欠です。

北本市での成功事例からわかるとおり、一つ一つは、セキュリティシステムのようにより目立った対策ではなくても、地域全体としての取り組みによって、大きな効果が期待されます。特別の活動への参加が難しくても、犯罪を減らすという、一人ひとりの意識によって、さらなる犯罪の抑制が可能となります。

幅広い取り組みにより、犯罪は大幅減

1 防犯カメラの設置



駅の東西に2基ずつ設置されており、24時間、周辺の状況を記録することができます。犯罪が発生した際には捜査のために活用されることで、犯罪への抑止力として、様々な地域での導入が広がっています。

2 メール配信(e防メール)



窃盗、振り込め詐欺など、様々な犯罪の情報を適宜情報発信しています。いますぐ市ホームページから登録して、防犯にお役立てください。



3 青色防犯パトロール



通称「青パト」によるパトロールの地域では、それ以外の地域より犯罪減少率が高い傾向があります。犯罪者に対し、地域の防犯力の高さを伝える効果があり、北本市でも減少に貢献しています。

4 自主防犯団体



平成15年には7団体のみでしたが、現在の団体数は100以上となっています。毎日の通学・下校中の見守りから、夜間の見守りなど、身近な生活を、普通の市民の皆さんが見守っています。

5 セーフコミュニティ



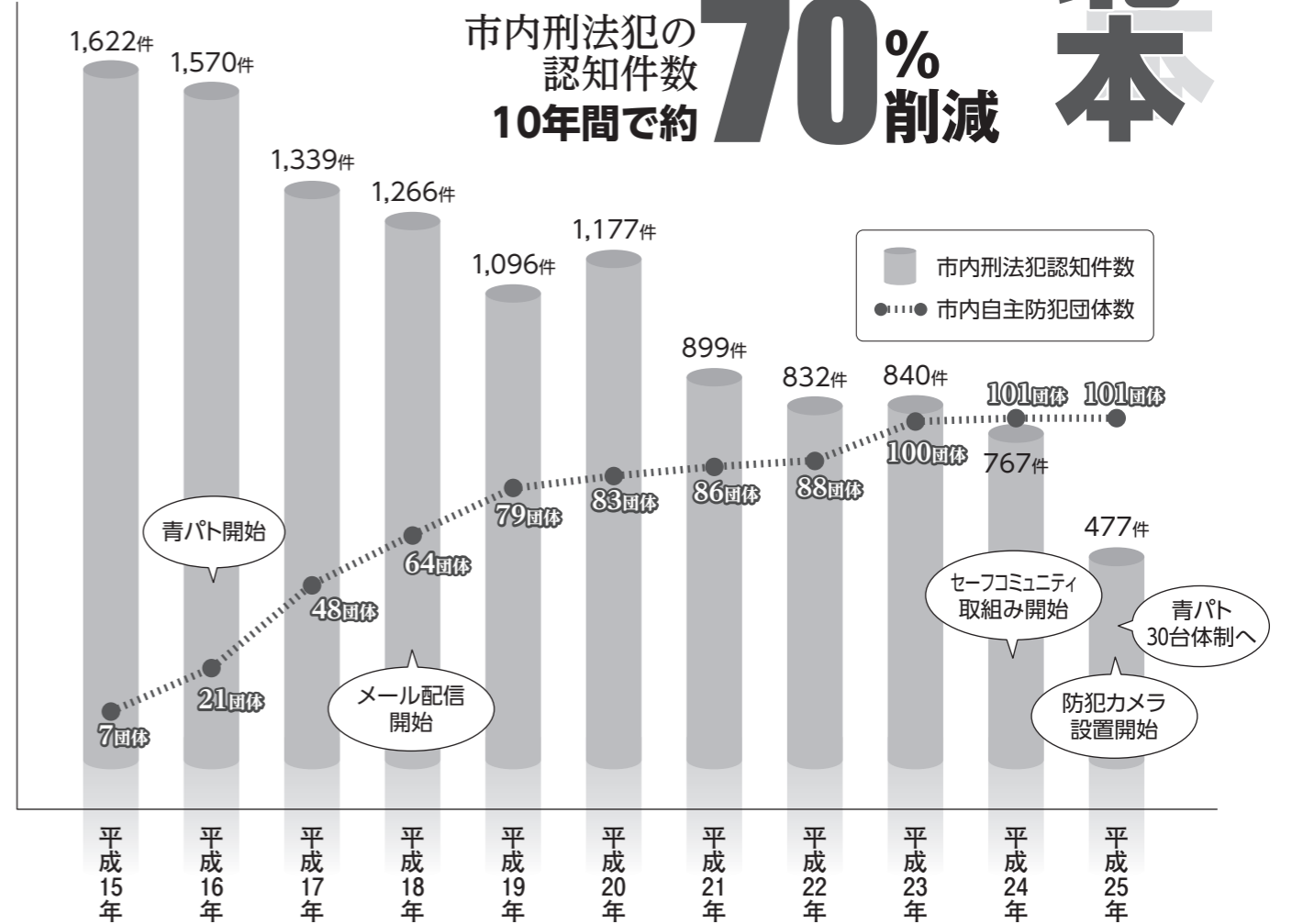
セーフコミュニティは平成24年からの取り組みですが、犯罪の状況や課題、解決策を検討し、幅広いキャンペーンを実施しています。今後のさらなる防犯力の向上において、大きな役割が期待されます。

6 防犯灯の増設



市内には5000以上の防犯灯が設置されています。この数年間で200以上増設しています。自主防犯団体によるパトロールや地域の犯罪への意識とあわせて、安心の向上に寄与します。

市内刑法犯の認知件数 10年間で約70%削減



Column コラム

市民の皆さんの ほんの少しの心掛けで まちが良くなります

地域の犯罪を抑制するためには、様々な取り組みを重ね合わせることで、犯罪を犯す側に心理的な抵抗を与えることが効果的です。「住民からジロジロ見られた」ということや、「2重ロックの自転車がが多い」といった心理的な抵抗が高まります。逆に施錠していない自転車が多くの場合には、犯罪を呼び込んでしまうことになります。

頑丈な 固定タイプ



追加しての 2重ロック



わたしたちの地域の安全を守る ボランティアの力



鴻巣地区防犯協会北本支部長
地域防犯推進委員
中村公哉さん

鴻巣地区防犯協会北本支部は、**地域防犯推進委員**250人で構成され、支部を8ブロックに分け、ブロック長を中心に地域における自主防犯団体への支援や防犯に関するアドバイスしたり、各自主防犯団体のリーダーとして活躍しています。ボランティアの力で、地域の安全を守り、安心安全なまちづくりに貢献しています。

地域防犯推進委員とは

地域防犯推進委員は地域の平穏と安全を目的に、生活を脅かす事件、事故等の未然防止活動に積極的に取り組むボランティアリーダーとして、地域から選ばれた皆さんです。この地域防犯推進委員が、**自治会パトロール隊**、**スクールガードリーダー**、**セーフコ**、**ミューニティ**等の各防犯組織においてリーダーとなっており、防犯に対するアドバイスや地域ぐるみの取組みなどを地区防犯協会や自治体・警察等の関係機関・団体と連携して行っています。

役割1 地域住民に対する情報の伝達



自治体や警察等と綿密な連携をとり、「地域安全ニュース」等により、地域が必要とする犯罪や事故等の発生状況や被害防止に関する情報を把握し、これを地域住民に回覧・周知したり、研修会や座談会に参加して得た地域安全情報を地域住民に知らせます。

役割3 地域ぐるみの取組みの推進



自治体、警察等が行う防犯キャンペーン等に積極的に参加したり、地域の实情に合わせて防犯教室、防犯パトロール、防犯診断、環境美化活動等の実施を呼び掛け開催したりするなど、地域ぐるみの取組みを推進し、地域安全活動を広めています。

役割2 自治体、警察への通報



日ごろから地域の環境変化や地域住民の防犯に関する声に気を配り、街路灯の球切れや少年のたまり場となる空き家、公園等の状況・子どもの遊び場の状況などの地域の实情を把握し、危険箇所や犯罪に結びつく情報を自治体、警察等の関係機関に通報します。

自治会パトロール隊

市内111の自治会のうち、72の自治会が自主防犯団体として、地域のパトロールや見守り活動等を実施しています。

自主防犯団体には、地域防犯推進委員がリーダーとして入り、団体の設立支援やパトロールの方法などをアドバイスしています。



パトロール隊を設立して10周年になる西高尾1丁目パトロール隊。隊長である武藤さんは、「私たちは、皆が自主的に集まったボランティアで、月数回のパトロールや環境美化活動をしています。そのほか西小学校の下校時には毎日、子どもの見守り活動をしています。あいさつをすることで防犯の役に立っていると思います」と話しています。



西高尾1丁目自治会
パトロール隊長
武藤 信義さん

スクールガードリーダー

スクールガードリーダーは、各学校から一人、市教育委員会から委嘱された交通安全・防犯に関する地域学校安全指導員です。学校内や通学路の登下校の見守り学校安全ボランティアです。



地域防犯推進委員でもある金野さんは、「地域の宝である子どもたちを不審者から守りたい。朝、子どもたちの顔を見て声をかけて健康状態も気にしています。多くの方に見守り活動に参加してもらえればと思います。高齢化社会となり特に若い力が必要です」と話します。今日も金野さんの「おはようの声」が響いています。



東小学校区
金野 昭さん

セーフコミュニティ 犯罪の防止対策委員会

地域防犯推進委員は、セーフコミュニティ犯罪の防止対策委員会の一委員となり、犯罪の防止の取組みやアドバイス、各団体との協働によりパトロールを実施するなど活躍しています。



自主防犯団体を 作りませんか？



県警から派遣されている市役所くらし安全課の防犯担当職員による『防犯相談』を開設し、自主防犯の設立のアドバイスや市民の身近な犯罪に対する悩みにお答えします。

電話による詐欺の傾向と対策

息子や孫を名乗り、携帯電話の番号が変わったという連絡	<ul style="list-style-type: none"> 息子や孫は、ほとんどが男性です。 声の違いで気づくだろうと思われがちですが、被害の状況からすると、気づかない場合もあるという想定が必要です。 <p>●対策：いざというときの確認のため、以前の番号も上書きせず残しておく</p>
犯人は泣き声や困った声で、問題が生じたことを連絡	<ul style="list-style-type: none"> ①考える間もなくお金を用意させる。②身内のトラブル(遺失、横領、痴漢)を理由に、警察や身近な人へ相談できない状況に追い込みます。 <p>●対策：家族で合言葉を決めておく ●対策：身内の恥・罪でも話せる相談先を事前に想定</p>
犯人グループの連携	<ul style="list-style-type: none"> 息子や孫役の犯人だけでなく、警察、金融機関、市役所など、さまざまな役割の犯人が登場し、「信用できそうな人が関係しているから、大丈夫だろう」と思わせます。 <p>●対策：組織の名前、電話番号、担当者名をメモし、104で番号を確認 ※104のサービスは有料です(60~150円程度) ●対策：犯人の声を残すために、留守番電話で録音</p>
金融機関からのお金の引き出し	<ul style="list-style-type: none"> 市内のほとんどの被害事例では、金融機関で引き出して、犯人へ渡しています。 <p>●対策：市内の金融機関はどれも詐欺被害を減らすために取り組んでいるので、不安を感じられる場合は、まずはお話ししてみてください。</p>
犯人グループによるお金の確保	<ul style="list-style-type: none"> 「振り込め詐欺」といいますが、市内では手渡しの場合が多いです。 被害事例では、路上で100万円以上の金額を手渡すという、犯罪以外ではあり得ない手法です。 <p>●対策：屋外で数十万円の現金の手渡しは不自然と思ひましよう</p>

「迷惑電話チェッカー」

モニターを募集中 (平成28年3月末日まで)

電話による詐欺の被害を防止するための「迷惑電話チェッカー」を利用いただけます。この機器には、警察などから提供された迷惑電話番号から着信を自動的に識別し、電話機を鳴らさず、光と音で通知します。

対象 次の各項目に該当する市内の世帯



- ①65歳以上の高齢者がいる。
- ②ナンバーディスプレイなどのサービスに加入している。
- ③アンケートに協力できる。
- ④市役所で受け取れる。
- ⑤自分で取り付けられる。

問合せ先：高齢介護課
高齢者福祉担当 ☎594-5539

身近な味方! 消費生活センターをご活用ください!

詐欺関連のトラブルは、周囲の人に相談し、落ち着いて対応すれば防ぐことができます。身内のトラブルのため、警察や市役所への相談にためらいを感じられる場合でも、私たちが相談相手になります。気軽にご連絡ください。相談は無料で、秘密は厳守されます。



消費生活相談員
和田 信恵さん(左)
中西 美智子さん(右)

北本市消費生活センター
北本市役所市民課内 ☎594-5529

多発する「電話による詐欺」

北本市では犯罪の件数を大きく削減することができた一方、電話による詐欺の被害は増加の傾向にあります。平成25年の1年間では4件、1170万円の被害であったのに対し、平成26年は12月3日までで12件発生し、被害総額は3700万円に迫っています。1年で10件程度では「自分には関係ない」と感じてしまうかもしれませんが、1件の被害には、1000回程度の未遂があるとみなされており、電話がか



かってくる可能性は誰にでもあります。しかし、被害は増えているものの、多くの場合は未遂にとどまっています。電話による詐欺は、地域での対応以上に本人や周囲の人々による取り組みが「カギ」となります。改めて今一度、傾向と対策を確認することで、誰もが犯罪を撃退できるはずなのです。

平成26年1月~12月3日現在の市内における発生状況

	発生月	年代	性別	被害金額概数(万円)	装った電話の相手	内容	受取者	方法	地域	場所
1	1月	60	女性	100	息子	借金		振り込み	市外	金融機関
2	1月	80	女性	300	息子	会社資金の遺失	息子の上司	手渡し	市内	事業所敷地内
3	2月	80	女性	600	息子	会社資金の遺失	息子の上司	手渡し	市内	路上
4	3月	80	女性	300	孫	会社小切手の遺失	孫の上司	手渡し	市内	路上
5	4月	50	女性	300	息子	会社小切手の遺失	息子の知人	手渡し	市内	路上
6	4月	70	女性	100	弟	会社資金の遺失	弟の上司代理	手渡し	市内	路上
7	6月	70	女性	350	息子	投資での損失	弁護士関係	手渡し	市外	路上
8	6月	60	女性	200	息子	借金		振り込み	市内	金融機関
9	8月	80	男性	100	孫	妊娠示談金	弁護士関係	手渡し	東京	路上
10	8月	70	女性	1000	孫	会社資産の遺失	孫の同僚	手渡し	東京	路上
11	10月	90	男性	100	息子	会社資金の遺失	息子の部下	手渡し	市内	路上
12	12月	70	女性	250	息子	投資での損失	息子の知人	手渡し	東京	路上



鴻巣警察署では振り込め詐欺被害を防ぐためにさまざまな対策を取っていますが、特に「金融機関で高額を引き出そうとする方に対する事実確認」による被害防止を強力に進めています。お声掛けした当初は、お金のことで困っている家族のために何とかしたい一心から騙されていることに気付かず、なかなかご理解いただけなかったのですが、その後、騙されていたことに気が付き、被害にあわずに済んだ方が昨年11月末現在で48人、詐欺被害から守ることのできた金額は1億3600万円に上ります。皆様方の財産を犯罪から守るため、現金引き出し時に金融機関職員や警察官からお声掛けすることがあります。どうかご理解とご協力をお願いします。

鴻巣警察署
からのお願ひ